授業科目名・形態	地域・在宅看護論Ⅱ（ケアマネジメント）　講義	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	石川セツ子・千葉美穂	実務経験の有無	有	開講期	2年後期
科目ナンバリング	N6-2003npmht				

【授業の主題】

社会や時代の変化に対応できるように、地域の生活の中で看護を必要とする多様な事例について、在宅療養生活を支える基本的な技術と日常生活を支える看護技術の実際を体験する。また、終末期看護（がん看護含）や様々な疾患による在宅療養者の事例展開について演習を実施し課題を抽出して学びを深める。

【到達目標】

1） 訪問看護の特徴と対象者について理解できる。
2） 在宅療養を支えるコミュニケーション技術、アセスメント技術を学び、必要性とその方法を理解する。
3） 日常生活を支える在宅看護技術の支援方法について理解できる。
4） 在宅療養を支える在宅看護技術(医療ケア)について理解できる。
5） 在宅療養を支える健康危機・災害対策が必要であることを理解できる。
6） 在宅療養における在宅看護過程の事例展開ができる。

【授業計画・内容】

第1回　疾患・病期に応じた看護①：医療的ケア児　認知症　精神疾患　難病　（石川）
第2回　疾患・病期に応じた看護②（慢性期・急性増悪した在宅療養者と家族の看護含）（千葉美）
　　脳血管疾患　呼吸器疾患　心不全　糖尿病
第3回　在宅療養生活を支える基本的な技術①：在宅療養を支えるコミュニケーションの基本等（石川）
第4回　在宅療養生活を支える基本的な技術②（千葉美）
　　在宅におけるアセスメント技術　環境整備　環境整備　生活リハビリテーション　感染予防
第5回　日常生活を支える看護技術：食生活　排泄　清潔　肢位の保持と移動　呼吸　睡眠（千葉美）
第6回　訪問看護ステーションにおける看護活動の実際（石川）
第7回　がん療養者への在宅看護：①がん看護と疼痛コントロール　②　看取りの看護（石川）
第8回　症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術（医療ケア）①（石川）
　　医療ケアの原理原則　発熱症状　消化器症状　薬物療法　排痰ケア　気管カニューレ管理　在宅酸素療法
第9回　症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術（医療ケア）②（石川）
　　褥瘡管理　足病変のケア　インスリン自己注射　在宅ＣＡＰＤ管理　在宅人工呼吸療法（ＮＩＰＰＶ、ＴＰＰＶ）
第10回　症状等に応じた看護技術・療養を支える看護技術（医療ケア）③（千葉美）
　　排尿ケア　ストーマ管理　在宅経管栄養法　輸液管理（在宅中心静脈法、末梢静脈栄養法）安全と健康危機管理
第11回　①訪問看護技術（講義・演習）（千葉美・石川）
　　家庭訪問・初回訪問、アセスメント　在宅における看護過程　訪問看護の記録　在宅看護援助計画立案
第12回　②在宅看護過程の事例展開　在宅看護援助計画立案（演習）（千葉美・石川）
第13回　①やってみよう訪問看護　グループワークによるロールプレイ①（千葉美・石川）
第14回　②やってみよう訪問看護　グループワークによるロールプレイ②（千葉美・石川）
第15回　③やってみよう訪問看護（訪問看護ステーションの開設～運営・経営）グループワーク・発表（石川・千葉）

【授業実施方法】：①講義　②演習　③グループワーク（ロールプレイ含）　④発表　⑤リアクションペーパー

【事前・事後学習】：・講義内容に関する事前学習を毎回2時間以上おこなうこと。
・講義内容を踏まえ、復習を毎回2時間以上行うこと。

【主な関連する科目】：地域・在宅看護論Ⅰ　　地域・在宅看護実習Ⅰ・Ⅱ　　地域在宅看護概論

【教科書等】：：2025年度版　地域・在宅看護論①②「地域療養を支えるケア」「地域療養を支える技術」
石田千絵　山下留理子著　メディカ出版

【参考文献】：令和7年版訪問看護業務の手引き等、その他必要に応じ授業で紹介する。

【成績評価方法】：1）筆記試験（70%）　2）課題レポート・演習への取り組み等（30%）

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

1） 訪問看護の実務経験を活かし、事例等を紹介しながら授業に取り入る。
2） 看護技術を高めるため様々な事例演習を通して実体験し、課題・疑問等について考え、学生自ら意考え意見等を言えるようにする。

3）訪問看護技術演習を取り入れ、地域・在宅看護実習の事前学習することで、スムーズに実習ができるようにする。

【学生へのメッセージ】

1） 地域・在宅看護の特徴を知り、療養者が望む住み慣れた地域での生活を感じ取っていただきたい。
2） 社会情勢等の動向について、新聞やマスコミ等に関心を持ち地域・在宅看護との関連性について考えてみましょう。